

平成28年度第3回甲賀市観光振興計画審議会 会議録

1 開催日時

平成28年(2016年)9月29日(木)午前10時から12時まで

2 開催場所

碧水ホール 2階 会議室

3 出席委員

木川委員(委員長)、横川委員(副委員長)、平岡委員(副委員長)、
大河原委員、清水委員、村山委員、藤田委員、和田委員、住田委員、友田委員、
川島委員

計11名出席

欠席者

寺内委員

事務局

産業経済部 伴次長

観光企画推進室 藤村室長、神山室長補佐

支援事業者

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 宮内、中部、福嶋

4 会議次第

1. 開会

○市民憲章唱和

2. 委員長挨拶

3. 協議事項

(1) 第2次甲賀市観光振興計画

・第1次計画の評価・検証

4. その他

(1) 次回審議会の開催時期について

5. 閉会

5 会議資料

資料1 第2次甲賀市観光振興計画【第1次計画の評価・検証】

6 会議内容

1. 開会

○市民憲章唱和

2. 委員長挨拶

3. 協議事項

【委員長】 会議の成立について事務局より報告をお願いする。

【事務局】 甲賀市観光振興計画審議会規則第3条第2項の規定に定める委員の過半数の出席があるため会議が成立していることを報告します。

(1) 第2次甲賀市観光振興計画【第1次計画の評価・検証】

【委員長】 事務局より説明をお願いする。

【事務局】 平成22年3月に策定された「甲賀市観光振興計画」に盛り込まれている施策に対して評価、検証をお願いします。現計画の14ページから25ページに掲載されている行動計画について評価・検証した資料を本日の資料として配布させていただきました。資料1の説明として3ページをご覧くださいと思います。一番左に「観光資源カルテの整備」とありますが現計画の14ページの行動計画に記載されているものを転載しております。その右欄から順に主な実施事業を記載し、さらに実施した内容や課題について記載しております。

また、一番右欄には事務局（案）として事前に検討した結果を「今後の方向性」欄とし「充実」、「継続」、「見直し・改善」、「完了」の4つに分類し資料作成をさせていただきました。

分類項目の補足をさせていただきますと「充実」とは、現行の取組みをさらに発展させていく必要のある事業をさしています。主には事務量、費用を増加しても実施する必要があると認識しているものであります。

「継続」とは、現行の取組みを継続して実施していけば効果があると考えている事業をさしています。「見直し・改善」は、「充実」とは異なり事務量、費用はほぼ同様に仕掛け方や対象等の見直しにより効果が得られると考えている事業をさしています。

最後に「完了」とは、一定成果を得た事業、また、「充実」させたい事業に専念するため取捨選択で切り離れた事業と位置づけております。

あくまで事務局の案となっておりますので皆様と一緒に議論をいただき方向性の確認を行ないたいと考えております。

では、おおまかに事務局（案）の説明をさせていただきたいと思います。特に「充実」が必要と考えている部分についてです。6ページのボランティアガイドスタッフの充実でございます。これはインバウンド等を意識した場合、外国語で対応できるボランティアスタッフ等の充実は必須である

と考えられることからです。また、7ページ「まちの顔づくり」、8ページ「市民が観光受け入れに参画できる機会を創出」では積極的な「忍者」活用の必要から「充実」としています。この他、11ページのマーケティングリサーチの項目と関連する部分となりますが現在、甲賀市では「観光入込客数」以外の指標の持ち合わせがありません。第2回の審議会でDMOの勉強会を実施しましたが甲賀市の観光振興として、どのような指標（目標）を定め、どのような手法により、誰が実施するのかも含め検討していく必要があると考え「充実」との区分としました。

一方で「完了」とした事業については、3ページ「観光資源カルテの整備」や7ページ「ガイドマップの作成」10ページ「まっふる滋賀甲賀の作成」等については計画期間内に成果品が作成できたことから「完了」としたものです。事務局からは以上となります。

【委員長】 事務局より第1次計画の評価・検証についてご説明いただいた。今後の方向性についても事務局案の提示があったが、ここでの議論に基づいて第2次計画を作っていくことになるので、それも踏まえてご議論いただければと思う。私からの質問だが、「充実」というところに「新規取組」という意味合いも含まれているのか。

【事務局】 補足させていただきます。資料18ページ以降をご覧ください。平成22年以降、今日までに観光をめぐる情勢は非常に大きく変わったと認識しています。インバウンドの増加や観光バスを使った団体旅行から着地型観光への変容といった社会情勢の変化、マーケティングの重要性、それを実施するDMOの存在といったことは、第1次計画策定時には無かった事象です。それらについて18ページ以降に「新たな課題」として触れさせていただいており、今の議論が終わったのちにご説明させていただこうと考えていました。

【委員長】 それについても議論に関係するので併せてご説明いただきたい。

【事務局】 資料18ページ以降の説明をさせていただきます。

課題「その1」として甲賀市の人口減少を少しでも食い止めるべく、観光産業の確立、雇用の確保が必要と考え「観光産業としての発展」として課題を抽出しました。「その2」としましては顧客の目線にたった観光サービスの提供が図れるよう体制づくりに主眼を置いた「市内の観光おもてなし体制の確立」としております。「その3」につきましては、「観光資源の有効活用に向けたしくみづくり」と題してしております。これは先の勉強会で必要性を学びましたマーケティング戦略の視点を計画に取り入れる必要があると考えたものです。最後の4点目です。「その3」との関連になりますがマーケティングの結果を次の計画、実行、評価に実践的にまわしていく事業者を誰が担うのか、DMO化の是非も含め持続的な取組みが可能か検討

する必要から「観光振興の推進にかかる体制づくり」と題して記載しております。

【委員長】 観光の世界が目まぐるしく動いていることを踏まえて課題が示されている。一方で、第1次計画を踏まえて次の計画を作っていくことを事務局から案として示された。委員の皆様は観光現場からの思いやご意見を反映させる形で進められればと思う。何かお考えがあればお願いしたい。ご質問等もあればお願いする。

【委員】 私が関わっている中で、市が土山サービスエリアにアンテナショップを設置している。そこで観光ボランティアガイドとして観光案内的な役割をさせてもらっている。甲賀市の名所等について説明しているが、観光パンフレットなどを配るばかりで本当に行ってくれているかはわからない。どこへ行くかと聞いても大津、京都という言葉が返ってきており、来てもらうにしても宿泊施設も食事するところもなかなか案内できないところで、まさしく課題であると感じている。

【委員長】 事務局として「充実」と評価されている項目だが、どういう充実を考えているか、補足いただけるだろうか。

【事務局】 先ほども説明しましたがやはり海外からの誘客になる。誘客のメインターゲットをどこに置くかということになるかもしれないが、小さい子どものいる家族層をターゲットにするのか、国策として注目されている海外からの来客にスポットを当てるのかはありますが、外国語を話せるスタッフが常駐しているとアピールできれば、忍者に好奇心を持っている海外のお客様にも安心感も与え、誘客につながる事が考えられる。そういう思いで「充実」としています。

【委員長】 そういう新しい層を取り込むことを考えての「充実」ということだが、現在の取組が有効なのかどうかという視点ではどうか。

【事務局】 今後マーケット調査等を考えるにあたって、どういう指標を定めることが甲賀市にとって有効なのか。前回の勉強会の知識だけの話になるが、「域内消費額」や現実的には困難かもしれないが「市民満足度」等が考えられます。また、他の自治体のマーケット指標についても調査を始めていますが、外国人の入込客数や事業所の売上調査をしているところもあります。ただ、それを観光振興計画で位置づけた場合に、税務調査のような印象をもち実際に事業者には回答いただけるのかどうかという問題もあります。サービスエリアでの案内については、各観光地の来客にアンケート調査し、サービスエリアでの案内で来たということが聞ければ、今後の継続や廃止の議論の際の調査結果につながっていくものだと思います。あとは観光施設や飲食店を巻き込んで調査等にどれだけご協力いただけるかが課題かと考えます。

【委員】 サービスエリアについては第3セクターで運営しており、甲賀市の発信としてアンテナショップを置いている。リニューアルについて市にも提案させていただいているところである。今の状況は、旧観光協会のボランティアにチラシの配布等をしていただいているが、どこまで効果があってどういう状況になっているか、甲賀市にも3つのインターチェンジがあり、そこで下りてもらって観光してもらえるような案内・配り方になっているかは疑問がある。その点について、アンテナショップについては現在、市と議論をさせていただき取組を進めているところである。観光パンフレットについては、英語、韓国語、中国語で作られており、これは有り難いところである。また、インバウンドについては9月にやや落ち込んでいるが、10月は国慶節として中国人の来客が日平均バス10台程度立ち寄っており、その状況を見てみると、若干、増加の傾向であると推測している。さらに、レンタカーで来る外国人も増えてきたというのが現状である。主に観光バスは大阪から滋賀、名古屋を経由して東京という流れだが、レンタカーならインターチェンジで降りてもらえるので、まずは魅力ある商品を作ってアピールすることで、誘客につながるチャンスは広がると思っている。

【委員長】 事業効果が目に見えなくて不安に感じるところかと思う。マーケティングとしてはある程度の数字を出していくということは全国的に取組まれていることでもある。ターゲットを絞ったマーケティングについて、土山サービスエリアでは家族連れが多いのであればそこに絞るなど、甲賀市ではどういう来客が多いのかということをもみんなで集約して情報を集める仕組みが必要ではないか。

【委員】 第1次計画策定時で行政も様々な団体も努力されてきたことはうかがえる。しかし、市民目線で言うと、総花的な感じがするということが1つである。また、甲賀市民9万2千人に「甲賀市の観光」について問いかけた時に、的確に答えられる人はほとんどいないのではないかと。私の身近で重要文化財の秘仏を所有する操野寺があるにもかかわらず、33年に1度の大開帳で本尊を拝まれた方も少ない。よそから聞かれた時に市民が的確に答えられているか否かについてはかなり疑問である。市民目線に立てば、例えば観光客が増えることが迷惑であったり、観光客が来たからといって自分の暮らしにはどんな影響があるのか、と冷めた目で見ているところがあると思う。しかし、甲賀市には歴史的な資源が非常にたくさんある。これが日の目を見ていなかったり一部の人にしか知られていなかったりする。そういう基本的な甲賀市の観光や歴史・文化について市民が答えられるような市民教育というものも大事ではないか。一般市民にも忍者についての知識を広めるようなことがあってもよいのではないかと。それが観光の基礎中の

基礎ではないかと考えている。

【事務局】 ご指摘の点については、本来であれば行政から市民の皆様へ、甲賀市の人口減少を少しでも食い止める、雇用の促進につなげるという目線からの観光振興であり、忍者で観光産業として確立していくということについて十分ご説明をする必要を感じております。現在はその説明が充分でなく、忍者のイメージだけが先行しているという印象を持たれているところが大きいと感じています。しかしながら、今年からシティセールスの一環として市内の高校でまちづくり講座を開催し、なぜ甲賀市が忍者を中心とした観光に力を入れ始めたのかという授業をはじめています。若者が甲賀市に住みつけてくれる様、そういった取り組みも始まっているということもお知りおきいただければと思います。

【委員長】 観光については、やはり教育の分野など大きくかかわる分野があり、市でしかできない事があると思う。甲賀市に住んでいる子どもに甲賀の魅力を伝える授業があるのか、先生がどうやっていいかわからないときに観光やまちづくり業界の人と橋渡しができるか、ということも含めて観光だと考えている。そういう広い枠組みで考えていくことも必要ではないか。

【事務局】 甲賀市での学習機会の創出は、小学校の3、4年生を対象に副読本を配布しており、教員が委員会を作って自分たちのまちについて知っておくところを編集しています。甲賀市として共通の部分と、水口町等の各地域内のことが記載されている部分で構成されています。まずは自分の住んでいる地域から、町外の地域のことに応じていくように構成しています。もちろん商業、工業、農業のことなどいろいろ掲載している中で、観光のことについても掲載されています。身近すぎて大事さがわからないという今のご指摘のようなこともあると思いますが、地元の良さを知ってもらう機会が必要だと考えています。

【委員長】 そういう教育はいつから取り組まれているか。

【事務局】 市町村合併前からの取り組みです。

【委員長】 そうすると甲賀市の児童・生徒はそういった教育を受けてきたということか。

【委員】 観光協会も合併して7年目であるが、学校や児童・生徒に地域を知ってもらわねばという議論はそのころからあった。しかし、それが学校にうまく乗せられたかといえばそういうわけではなかった。ロータリークラブが郷土の歴史の漫画を作って学校に配るという取り組みもあった。観光振興というより産業振興であり、関わる事業者にたくさんお金が落ちるようなことを目標に動くが、それだけになると商売にならなければ動かないということでもある。そうではない取り組みとして、住民の誇りといったものになると思う。観光というより我々のところでは地域振興に近いもの

になっており、産業より住んでいる人の誇りを育てるという部分になっている。それは絶対必要な基礎だと思うし、よその人に地域を自慢できるようにするものである。そういう話をできる人が地元においてほしい、そこに事業者がうまく乗かけると良いと思う。取り組みの方向として、外向きの誘客と地域の啓発を分けて進めており、どちらも必要だと考えている。住んでいる人に甲賀市の観光のイメージがないということが大きい。あれこれやらなければと考えると結果的に総花的になってしまう。資源がありすぎてどれをどう使うかが問題になる。第1次計画では信楽、忍者、東海道の3つを柱としているが、外部の人には、「東海道」は伝わりにくい。どこに行っても「忍者」は知られているので、それを使わない手はないと思う。市では忍者が大きな資源なので、それをとっかかりに前に進めようとしているが、それと第1次計画の評価の問題でもあるが、むしろ振興計画そのものの話が必要ではないかと思う。評価のための指標がない、金銭ベースで評価できるものがあると良い。また、3本柱は3本だけなのかと思う。一番引っかかっているのは、ゴルフ場のプレイヤーの数が先日の資料でも大きい。しかし、観光振興の取り組みではゴルフ場に少しも触れていない。また、国内でも観光振興でスポーツ観光に取り組む自治体も多く、具体的にお金にもなる分野であり、検討してもよいのではないかと考えている。

【委員長】 次の振興計画にどこまで入れていくかを考えなければならない。

【事務局】 指標として何を設けるか、市として何を重視して、どういう施策を打てば市としてよくなっていくのかということを考えてい。

【委員長】 まさにその部分が求められるマーケティングの部分だと思うが、心配するのは誰が決めて、誰が実行するかのかの枠組みである。その部分が第2次計画の重要な部分だと思う。情報が集まったとしても誰かがそれについて判断しなければならない。教育の視点もよいと思うし、先生方を巻き込めればよいが、市としてやっていく方向性を示さねばならない。甲賀市を好きになるということの意味を総合的な計画として出していく必要がある。最近のトレンドとして観光に来る人は選択肢がたくさんあるから来るのではなく、モデルケースをある程度示して旅行商品になって初めて来るということがある。目的の場所だけに来るのではなく、食事や移動のコースまで示すやり方も必要であり、それもマーケティングとして必要な部分だと考える。

【委員】 観光資源が複数あるが的が絞れていないから効果が出ていない。中心になって動くのが誰かということだが、古い話だが中山道の妻籠宿が脚光を浴びた時に、有志で勉強したことがある。妻籠の町役場の観光課の係長が一人で頑張ってきたものであるということが分かった。それがなぜできたのかという話の中で、町長が全面的に支援したということが言われていた。

それくらい情熱を持ってかからねばできないものである。今の市役所の体制の中でそういうことが可能かといえばなかなかできないと思う。しかし、みんなが知恵を出して解決しなければしょうがない。それには的を絞らなければならない。甲賀市としては、忍者は取り組みやすい。しかし、忍者は密使であるため後ろ向きの表に出ないものである。歴史的な観点でとらえる方向と、キャラクター性を出して遊びとして取り組むことと両建てにして取り組むことはできるのではないか。甲賀市に一步はいれば飛び出し注意の標識など含めて忍者があちこちに目につくくらい思い切ったことをやらなければいけないし、すべきだと思う。

【委員】 第1次計画では3本の柱だが、忍者と東海道は広すぎて絞り切れない。もっと忍者についても絞り込むべきではないか。ただ、忍者の里というだけでは伊賀に負ける。伊賀に追いつくのは取り組みの歴史も違い難しい。うまく利用させてもらう手だてを考えねばならない。

【委員】 地域では意外と、伊賀についていくのはいや、損するだけだという思いもある。伊賀と一緒にやるとマスコミの食いつきはよいが、地域の人どこに連れて行くかと聞けば、忍術屋敷と忍術村くらいしか出てこない。もっとたくさん出てこなければ1日遊べない。

【委員】 その続きで、信楽町は観光の先進地だと思う。今日も朝から社会見学で多くの子どもが来ている。観光の入込数のカウントで行くと、その結果は疑問だが、平日に観光バスが30台程度きている。また、ミホミュージアムにも観光客が多い。それを利用しない手はない。信楽だけに来る人もいるが、京都府と信楽町というコースもある。

【委員長】 観光エージェントに対してコースの提案などを民間で取り組むべきではないか。行政は駐車場の確保などのバックアップの支援ができる。

【委員】 エージェントから言われるのは食事ができる場所である。信楽町に寄ってくれる人を利用して考えていく。

【委員】 この広い地域に小さな道の駅が一つしかない。道の駅が今までなかったことは残念である。交通の要所に広大な道の駅ができ、そこで忍者の話もでき、修行館なども併設されていれば客は集まると思う。

【委員】 拠点施設の整備について我々は毎年要望を出している。観光協会では忍者観光マップを作った。関係するお寺などもマッピングしてイメージを持ってもらえるようにしている。

【委員】 忍者修行についても分散してしまっている。学術的な部分と遊びの部分併設するようなものはないか。

【委員】 道の駅「あいの土山」は近畿で最初に完成したものである。新名神高速道路ができて入込客数が落ち込んでしまった面もある。観光については食べ物的大事になる。名物は何かということと、お土産に買って帰れるものが

必要になる。しかし、なかなか紹介できるものがない。道の駅「あいの土山」も観光物産がなかなか出せていない。季節や供給の問題等もあると思うが、観光としては食べることにスポットを当てることが重要。朝宮の茶はあるが、農業物産はなかなか紹介しにくい。新名神高速道路を下りてどこに行くかと言っても点でしかなく、紹介が困難である。衣食住のすべてが網羅できるということが必要だと思う。

- 【委員】 バス観光で客を受け入れる店舗が信楽町にしかない。
- 【委員】 市内でホテルの改築をされているところもバスで来た客を受け入れる規模を確保するためのものと聞いている。
- 【事務局】 地域物産について、湖南市でJ Aが参画して物産館を開設すると聞いているが、それについて委員よりご紹介いただけないか。
- 【委員】 湖南市で進めている物産館で地元農産物をメインに販売する計画となっている。道の駅ではない。水口町の花野果市と似たものになっている。花野果市でもお土産広場をつくり、水口・土山の物産を置いているが、なかなか観光バスが入ってこない。農協観光のコースの一つにはなっているが、観光地があまりないということで月に2～3回くらいしかバスが入ってこないのが現状である。
- 【事務局】 湖南市の物産館で販売する地元農産物は湖南市でとれたものだけなのか。
- 【委員】 湖南市だけでは販売数が不足するので甲賀市産のものも予定している。生産者からは甲賀市にも物産館等を作ってほしいという要望は聞いている。
- 【委員】 物産館は来客目的になる。県外からのドライブに来た人は地元産を安心して買っている。
- 【委員】 観光地近くに作れば誘客ができています。
- 【事務局】 湖南市では複合型商業施設の隣に併設される予定です。観光入込客数としては年26万人を見込んでいます。道の駅「あいの土山」の入込客数が15万人以下であるため、それを上回る入込客数を見込んでいくことになります。新名神高速道路ができてから移動の動線が変わり、道の駅「あいの土山」の入込客数は下がっています。
- 【委員】 私の娘は大学生で京都に住んでいるが、友だちを連れて家に遊びに来た時にどこに連れて行くという話をした時に若い子が遊べる場所がない。甲賀市の若い人が観光についてどう思っているのか。そういう調査もできると良いと思う。若い人が遊べる場所は本当はないと思う。
- 【委員】 忍者などには興味のある若い人が増えているが興味次第で分かれてしまう。
- 【委員】 具体的な振興計画に入れてほしい話などはもう少し後の審議会になるだろうか。
- 【事務局】 本日の事務局案を柱として文書化したものを、次々回くらいの審議会で諮りたいと考えています。本日はそれに向けての前段の会議と考えています。

- 【委員】 たくさん観光客に来てもらう上で、大雨警報の情報などが発信されてくるセーフコミュニティの認証も甲賀市では取っているのですが、そういう危機管理の点も振興計画に含めていかなければならないと感じている。
- 【委員長】 インバウンドの中に安全面の検討について盛り込むということかと思う。防災に関するところは危機管理系のところが重要になると思うが、それについて協議する等の方向性を示すことはできると思う。
- 【委員】 危機管理課との連携は必ず必要だと思う。何があっても観光客を守るというセールスが必要と考える。
- 【委員】 質問になるが、振興計画について忍者、東海道、信楽と3つ上げているが、ターゲットをどうするかは振興計画で示すものか。
- 【委員長】 明確であればよいが、基本的には全方向にしておく方がよいのではないかと考える。
- 【委員】 私はターゲットを決めるべきだと思う。東海道なら高齢者の健康志向でウォーキング等に参加するというデータがある。それぞれの観光資源のターゲットを誰にするかは明確にすべきではないかと思う。
- 【委員長】 まさしくその通りだと思うが、それは振興計画で決めるというより、ターゲットを誰が決めるのかという形を作ることを示すのが大事ではないかと思う。責任を持ってマーケティング戦略を取る体制づくりを決める場であり、今後12年間の観光の取り組みをこの場で方向づけてしまうことはしにくいと思う。ご指摘の点はその通りだし、そのことを明確に進められる形作りは必要だと考える。
- 【委員】 私としては甲賀市の人たちが観光地という認識を持っていないのは間違いないと思うし、忍術屋敷や忍術村にも行ったが身に付いていないのが現状である。平成40年までの計画なら、腰を据えて地域の誇りを、胸を張って伝えられる若い人をつくっていくことが重要だと思う。地域主体形成の場づくりといっても地域に意識がないのにできるわけがない。地域づくりは人づくりであり、その部分に腰を据えて取り組むべきだと思う。
- 【委員長】 その意味では、学校教育などは行政しかできないところであり、思いは共通していると考えている。制度的にできない部分があるなら、市を挙げて取り組める形を提案することもできないかと思う。全市を挙げての取り組みが必要だということを総合計画的な部分とリンクしながら進めなければならぬと感じた。
- 【委員】 海外の方と話していて聞かれるのは、あなたのルーツは何かということで、それに胸を張って答えられないのが恥ずかしく感じる。我々のルーツは何なのかという意識が非常に低いのではないかと思う。その部分も伝えていくべきだと思うし、外に向かって胸を張って言える人を増やしていかなければならないと思う。また、ゴルフの話だが、ゴルフ場が多いのは周知の

ことだと思し、前回会議でも話があったが入込客数の3分の1がゴルフ客となっている。これが振興計画に入らなかったのはなぜなのか。ゴルファー自体は減少傾向にあるのでゴルフ振興はうまくいかないかもしれないが、そうであるなら観光調査としてカウントする必要はないのではないかと。市としてはゴルフ場利用税など税収につながるものであり、動向を把握する必要はあると考えています。

【事務局】 それならばゴルフ客は別にカウントすればよい。観光調査で複数個所に訪問した際にそれぞれでカウントされているようでは、正しい数字にならない。どういう目的で何人来ているのかという数が出せないようではいけない。アンテナショップの効果についても、追跡することは可能である。現状としてどういう人が観光に来ているのかということが、アバウトにしかわからない。このままでは検証・評価の基準が作れない。計量的に見ることのできる指標作りが必要だと思う。人づくり、産業づくり、検証の指標作りが必要ではないかと思う。

【委員長】 だからこそDMOが必要であり、数値に基づいた観光施策を日本中で進めようとしている。今後それをやっていこう、それをできる仕組みづくりをしようというのが次の振興計画ではないかと思う。こういうことが必要だという意見が上がっていることを踏まえて12年間耐えられる計画をどう作るかということだと思う。

【委員】 私が配属されている店では、日々来ていただくお客様に対し、飲料棚の上に忍者がのぞいているようなものを作って、少しでも遊び心を感じてもらおう取組をしている。一つ残念なのは、甲南に来て観光地を紹介したいが、下りのパーキングエリアに寄った段階で信楽まで行ってもらうしかなくなってしまふことである。問い合わせはかなり多い。忍者を目指してくる人には働きかけが出来ずに残念である。

【委員長】 皆様にご意見をいただきましたが、事務局には本日の意見を整理してご提示いただければと思う。将来的には甲賀忍者と伊賀忍者の違いを小学生が説明できるくらいになると良いと思う。

【事務局】 イベント等では「甲賀流」を前面に出して伊賀との差別化を図っている。

【委員長】 伊賀との連携というのもできるだけやってくれればと思う。

【事務局】 伊賀と甲賀の連携については、日本遺産の登録を目指し両市を代表し甲賀市で行なっています。日本遺産の登録のあかつきには伊賀と甲賀が連携して何ができるかということが重視されており、市だけではなく観光協会の連携や関係機関との連携の仕組みをつくって何かできないかということを検討しています。

【委員長】 いろいろご意見もあると思うが、時間になったので本日はここまでとします。次回にはご意見を整理したものをお示しいただければと思う。次々回

くらいに文書にしたものを示していただくということで、また、ご議論いただきたいと思います。

4. その他

(1) 次回審議会の開催時期について

開催日時

平成28年(2016年)10月25日(火) 午後2時から午後4時まで(予定)

開催場所

あいこうか市民ホール 1階 練習室3

5. 閉会